

# イノベーション創出の加速化に向けた知財政策・制度のあり方 (知的財産委員会企画部会 中間とりまとめ)【概要】

2011年4月27日  
(社)日本経済団体連合会  
知的財産委員会企画部会

## I. 基本認識

- \* 新しいパラダイムにあったイノベーションの加速化が必要
- \* ビジネスモデルの変化に適応した新しい協業への挑戦が必要
- \* 知の発信力・求心力の強化に向けた新しい知財制度のあり方を追求することが必要

## II. イノベーション創出に向けた知財戦略の重要性

- \* パラダイムシフトで「知」の活用の仕方に変化 ⇒ 経営戦略の一環としての知財の戦略的活用が鍵

## III. 海外から叢智を惹きつける魅力ある知財インフラの整備

### ◆ 協調領域に相応しい技術普及志向の特許制度の検討

…協調領域を想定した「ソフトIP」(差止請求権ないが損害賠償請求権や対価請求権あり)の追加による「複線型特許法制」も選択肢

### ◆ イノベーション志向の著作権法制の検討の開始…経団連提言「複線型著作権制度」を基礎にさらなる議論を期待

### ◆ 国際的整合性ある制度構築

- ・職務発明制度再改定の検討…発明の原則法人帰属化もしくは自由契約化等を含めた本質的な検討が必要
- ・通常実施権の第三者対抗制度の改善…登録を要件とせず第三者に対抗できる「当然対抗制度」への早期実現を期待
- ・営業秘密の保護に資する刑事訴訟手続の整備…公判審理における営業秘密漏洩防止措置の早期実現を期待

## IV. 海外展開のための知財インフラの整備

### ◆ わが国企業のアジア展開を念頭に置いた知財保護強化策の推進

- ・中国…知財政策を強化するも、知財関連訴訟増、日本の地名・ブランド商標登録等の問題あり。政府間交渉に期待
- ・韓国…官民一体の知財戦略に特徴あり。日韓で日中韓やアジアの知財議論の主導を
- ・ASEAN…各国で知財制度整備状況が異なる中、協力・支援とのパッケージでの推進が重要
- ・インド…知財制度に関する情報が不足。EPAを契機に改善を期待

### ◆ 国を跨いだ共通の特許制度構築に向けた制度調和への取り組み

- ・世界共通の特許制度…グローバル化が拡大する中、各国毎の特許の権利・制度の世界共通化を志向すべき
- ・アジア共通の特許制度…世界共通の特許制度に向け、アジア共通の制度や広域の特許庁設立を
- ・制度調和に向けた取り組みの現状と課題…国際的調和は容易ではないが、わが国が調整役となることを期待

### ◆ 不正競争防止法等による営業秘密の国際レベルでの保護

### ◆ 通商政策との連動(TPPをはじめとするEPA)…一刻も早くTPP参加を決断し、議論に参加すべき

### ◆ 模倣品・海賊版対策…ACTA(模倣品・海賊版拡散防止条約)の参加国拡大が必要

### ◆ 国際標準化戦略の推進

…国際標準化特定戦略分野等の着実な実施、「認証」の戦略的活用、諸外国(特にアジア諸国)との協力による国際標準の獲得、標準から見た望ましい知財制度のあり方の検討が重要

### ◆ 新興国の知財情報収集の推進…特許庁に期待(JETRO等との連携も必要)

### ◆ 国際ルール作りへの参画…国際的議論に参加し、不当・不公平なルール設定を抑止することが必要

## V. 「イノベーション・ハブ」になるための基盤強化策

### ◆ 推進基盤の強化…政府における連携強化、ファイナンス強化

### ◆ 創出基盤の強化…産学官連携プラットフォーム強化、知財を活用した国際貢献プラットフォーム強化(環境技術移転等)

## VI. 今後に向けて

- \* 「新しい現実」に対応するイノベーション創出が従来にも増して重要
- \* 新しい時代に相応しい知財政策・制度の議論を深め、具体的アクションへ